

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3770104267
法人名	社会福祉法人すみれ福祉会
事業所名	グループホーム花もめん
所在地	香川県高松市太田下町2020番地1 (電話) 087-815-1800

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価決定日	平成19年9月10日

【情報提供票より】(19年 6月 21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年 3月 31日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計 18人
職員数	12人	常勤 12人、非常勤 2人、常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての3階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	360円	昼食	500円
	夕食	520円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	馬場病院、栗林病院、高松大塚歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、母体となる特別養護老人ホームが持っている地域との連携、食事関係、緊急事態の対応等の機能を、十分に活かしながら、グループホームとしての独自の工夫を築きあげているホームである。ホーム内は、全体的に落ち着いた古民家風で、心がなごむ工夫が随所に見られる。書類関係もきちんと整理し、管理ができており、毎日の生活も脳のトレーニングやリハビリ体操など、一人ひとりにあったものを取り入れる等、独自の工夫が見られる。今後、ますます期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念をホーム全ての職員で考え、明示したり、応急手当の勉強会を実施する等、改善点に取り組んだ。また、併設の施設が作成した、完成されたマニュアル等を安易に使用することを止め、ホーム独自でホームの利用者に適した内容に作り直す等、改善項目について全ての職員で真摯に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティング時を利用する等、自己評価を通常業務として捉え、日々の日課の中で、職員全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 当初は、特別養護老人ホームとの違いや入居人数など、現状把握に対する質問が多かったが、会を重ねるごとにグループホームに対する理解の深まりがみられ、前回の会議では、入居者の作品を地元の文化祭で展示してはどうかと提案していただいた。今後も、いただいた意見を基にした活動が展開されることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情処理箱をホーム入り口に置いたり、面会時の何気ない会話の中で、さりげなく促し、気軽に言っただけよう配慮している。また、運営推進会議も、参加しやすいように工夫し、忌憚のない意見を出していただき、運営に反映させていく予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 併設の母体施設が、地域の老人会、婦人会、自治会等との結びつきが確立されていることから、ホームとも密接に連携が取れている。また、地域の各団体や個人的な訪問も多く、地域に根ざしたホームといえる。

2. 評価結果（詳細）

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の改善課題でもあったため、職員全員で考え「ケアの10姿勢～ケア方針～」と表題をつけて明示しているが、項目が多く、また、内容や表現においても全員の職員が十分に理解できている状態ではない。	○	作成したものは、表題を「ケア方針」としているように、理念を具体的にしたものとして捉え、理念は、職員だけでなく、利用者にも分かりやすいものになるよう、再度、職員全員で検討するを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや月2回の職員会において、話し合い、基本的な考え方を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の施設が、すでに地域の自治会や老人会等と交流があったため、ホームにおいても保育所の訪問を受けたり、近隣の行事にこちらから出かける等、交流が図れており、さらに、ホーム独自の交流も取り組み始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することは、ケアの質の向上につながることを全職員が理解し、外部評価は一つの機会であると捉え、全員で取り組んでいる。また、前回の改善項目について、どのようにすればよいか話し合い、改善できている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行っている。特別養護老人ホームとの違いや、入居者の様子等の質問に答えるごとに、ホームへの理解が深められているようである。また、最近の会議では、地域の文化祭にホームの作品を展示してみてもどうかと提案していただけるようになった。	○	地域の方は積極的に参加してくれ、意見も活発にいただいているようだが、家族は欠席が多い状態である。1家族だけでは参加しにくいようなので、次回からは2家族の参加を依頼する予定としている。今後、実現し、様々な立場から意見をいただけるよう、さらに努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターとの連絡や連携は、頻回に行われている。</p>		
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>併設の施設と共同で、隔月で通信を作成し、見ていただいている。ホームの内容も多く、生活の様子が分かりやすく掲載されている。また、面会が非常に多く、日々の生活については、その度報告し、緊急連絡については電話を利用している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理箱を設置し、家族からの要望を積極的に受け入れる姿勢であるが、現在のところはない。運営推進会議への出席については、今後は2名の家族にお願いし、出席しやすい状況を作り、さまざまな意見をいただく予定としている。面会時には、利用者の報告と共に、意見をいただくよう促している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人としては、大規模の職員を抱えているが、異動は極力さけ、利用者との馴染みの関係作りを大切にしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム外研修は法人全体で管理表を作り、適任者の参加を進める一方で、偏りがないよう配慮している。研修には、頻回に参加できないため、ホーム内での報告会を充実させている。また、資格取得のための勉強会もホーム内で行っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ホーム職員は、併設施設の職員とは、頻回に交流を持ち、情報交換を行っているが、他の同業者との交流は少ない。</p>	○	<p>県内外を問わず、交流を深め、グループホームの抱える課題を話し合うなど、サービスの向上に活かしていくことを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前には必ず見学をしてもらい、雰囲気を感じてもらっている。その上で、入居の決定を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どの利用者も特技や生活の知恵を多く持ち、さまざまな場面で教えられることがあり、日々の生活の中では、喜怒哀楽を共に感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の趣味を把握し、日常生活の中で取り入れるよう努力している。また、希望の自己表現できない人には、家族の話などから推測し、利用者に合った支援ができるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、介護計画について話し合っている。本人の意見は、日常会話の中から引き出せるように留意している。家族からは、過去の生活の様子や家族としての意見などを伺い、参考にしながら、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行うと共に、身体的、精神的に変化が生じたと考えられた時は、臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設が持つ、リハビリ機能などを十分に活用している。さらに、自家用車を利用し、外出も容易にできている。近隣の保育所や学校の訪問を一緒に受けたり、研修の場としても提供する等、多機能性を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、従来のかかりつけ医を継続したいか、ホームのかかりつけ医でよいかを確認し、了解をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を聞きながら、医療機関と話し合いをして、方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の特技などは褒め、誇りの持てるような言葉かけに気をつけている。また、プライバシーの確保には最善の注意を払うよう、職員会議等でも繰り返し周知している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課を促すのではなく、何がしたいのか、どうしたいのかを選択してもらおう等、入居者が示しやすい方法により希望を聞き、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体の特別養護老人ホームで調理されているため、入居者がかかわることは少ないが、衛生面の管理においては安心できる。配膳、片付けは、行える人は各自で行っている。おやつ作りを月に1回行っている。	○	献立を入居者に見やすい位置に掲示する等、食事に対する楽しみが持てるように、更なる工夫に期待したい。また、おやつ作りの回数をもう少し増やし、調理する機会を増やす等、検討して欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を聞き、入浴の案内をしている。ゆったりとした気持ちになれるよう、急かさなない配慮をしている。入浴記録表を用いて、回数もチェックしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	油絵を描くことが好きな人には題材を用意し、描きあがったら皆の見える場所に展示したり、縫い物が得意な人には、雑巾等を縫ってもらい、それを日常に使って感謝を述べている。また、歌の好きな人には曲を用意したり、ベルを練習して、たくさんの人の前で演奏してもらう等、できること、楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体施設の自動車などを利用し、月に一度は買いもの等に出かけている。また、敷地内の畑を見に行ったりしている。	○	外出は、天候にも左右され難しい面もあるが、敷地内に畑や広い庭があるので、短時間でも戸外に出る機会を、日常的につくるような取り組みが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、玄関にも鍵はしていない。不安感のある人には寄り添い、見守りをして対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。前回は、利用者も実際に訓練を行った。地域の方へは、連絡網等で協力体制が得られているが、さらに、協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、母体施設の栄養士による献立に基づいている。残食や水分のチェックにより、摂取量を把握し、不足の利用者には、適切に対応している。また、摂取しやすいように、個別にきざみ等の食事形態を工夫している。		
の					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は音や光が強すぎないように配慮され、季節の花などで飾りつけられ、居心地の良さが感じられる。窓からは、朝顔が毎日大きくなり、花をつけていくのが楽しめるように植えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を希望する人、ベッドを希望する人など、入居者の好みの部屋にしていたり、飾り物やタンス等は、自宅から馴染みのものを持ち込んだりしている。		